

茶豆風味エダマメにおける作型毎の高品質化技術の確立

【研究概要】

江東地域では、農協直売所が開設されて以降、エダマメを直売所に出荷する生産者が増え、各作型を組み合わせ5月～11月まで出荷されている。食味が良い茶豆風味品種の生産が伸びているが、作型によっては、低温による減収や病害が多発し、特に半促成・抑制栽培では、3粒莢率が低下する。このため、生産者からは茶豆風味品種の作型毎に適した品種選定や安定生産技術の開発が求められている。

そこで、茶豆風味品種における作型毎の適性品種と栽培方法について検討し、莢数・3粒莢率の向上と作業性（草丈、倒伏性、在圃性）に効果の高い技術を確立することを目的に試験を実施した。その中で、今年度は下記の3つの成果が得られた。

- （1）3月下旬播種によるハウス半促成栽培では、収量性や3・4粒莢率が高く、草姿を低く抑えられる「神風香」と、収量性が高く、遊離アミノ酸、全糖含量が高い「陽恵」が特に有望である。
- （2）初生葉出芽期に移植した「陽恵、ゆかた娘」は初生葉展開期に移植した株より可販収量が1.2倍以上多くなるが、草勢は強くなる。初生葉出芽期に移植した株の7節目を摘心することにより収量を落とすことなく草勢をある程度抑えることができる。
- （3）9月下旬播種のハウス抑制栽培において、トンネル被覆及び水封マルチは一部品種に対して黄化抑制効果があるが、収量は増加しない。また、「おつな姫」は他の茶豆風味品種よりトンネル被覆なしでの収量が高く、黄化の程度が少ない。